

月刊 河井克行 二月号

平成二十四年二月一日号

衆議院議員 河井克行事務所

自由民主党広島県第三選挙区支部

国会事務所 TEL:03-3508-7518 FAX:03-3508-3948

広島事務所 TEL:082-832-7301 FAX:082-878-3301

ブログ「あらいぐまのつぶやき」 <http://kawai.fine.to/katsu>

河井克行代議士が呼びかけ、 自民党中堅・若手議員十数人が谷垣総裁に直談判！ 「消費税増税の全党協議を」

政権交代総選挙から二年五か月が過ぎましたが、三代にわたる民主党政権の外交・内政両面での混乱と迷走はとどまるところを知りません。ところが各種世論調査では、民主党支持率の下落に合わせて、自民党に対する国民の支持もまったく振るわない状況が続いています。明確な政策を打ち出すことができない党執行部の現状に強い危機感を抱く河井克行代議士は、同じ考えをもつ衆参両院の中堅・若手議員十数名とともに、2月15日(水)党本部に谷垣禎一総裁を訪ね、日頃有権者から聞かされている自民党への注文や不満を直接ぶつけました。



有志議員を代表し、谷垣総裁に訴える河井克行代議士
(党本部総裁応接室にて)

最初に、一同を代表して河井代議士は、「ここに来た仲間は派閥も選出ブロッ



報道陣の取材に答える河井克行代議士
(テレビ朝日系列ANN・NEWSから)

クも地域特性も異なるが、共通するのはいまの自民党に対する危機感だ。党への支持が低迷している理由の一つは、自民党がいったい何をしたい政党なのか、国民にはさっぱりわからないことにある。党の顔が見えないし、旗印も見えない。このことは、国民の最大関心事である消費税の増税問題によく表れ

ている。執行部は“公約破り”と民主党政権を批判するだけで、じゃあ自民党なら

ばどうするのかについて話し合う場すらないではないか。個々の部会や調査会ではなく、党全体で消費税増税について議論する場を早急に持っていただきたい」と総裁に要請しました。続いて、西田昌司参議院議員(京都府)をはじめ参加したすべての議員から、TPP や党運営全般について「総裁にはもっと指導力を発揮してもらいたい」などと苦言が相次ぎ、中には「このままでは選挙を戦えない」、「こんな自民党では次の選挙でも勝てない」という意見すら出されました。予定された30分間の会談時間を大幅に超し、総裁は党内で何らかの話し合いの場を持つことを約束。申し入れに参加した議員は今後の党執行部の対応を注視し、その結果によっては、これからさまざまな動きを起こすことを考えています。



熱気ムンムン「合同新年交歓会」 感銘を与えた佐藤優氏の“憂国”講演

1月23日(月)、自由民主党広島県第三選挙区支部と河井克行を育てる会連合会(会長:伊藤仁)の共催による「平成二十四年合同新年交歓会」がANAクラウンプラザホテル広島で開かれ、会場いっぱいに詰めかけた参加者は、「日本の政治を建て直す」決意を表わした河井克行代議士への揺るぎのない支援を確認しました。講演会には、政治家の会合にはあまり顔を出さないことで知られる大宅壮一賞受賞作家・佐藤優先生(元外交官)がわざわざ応援に駆け付けていただき、民主党政権の外交・安全保障に対する姿勢や能力に強い危惧を示しました。また、独自情報を基にイラン情勢の緊迫化に警鐘を鳴らしました。そして、「新しい思想をもった政治家が出てほしい」と訴え、超党派の中堅・若手国会議員による政策集団『日本を根っこから変える保守の会』を結成するなど幅広く動いている河井克行代議士に大きく期待をしていることを明らかにし、後援会の結束を呼びかけました。



河井代議士に熱いエールを送る作家・佐藤優先生
(ANA クラウンプラザホテル広島にて)

民主党政権が突如言い出した消費税の増税に反対する「わけ」

～BS・TBS政策討論番組での河井克行代議士の主張～

2月5日(日)と12日(日)に放映されたBS・TBS「政策討論 われらの時代」に出演した河井克行代議士は、役所が考えたその場しのぎの消費税増税では日本の未来はつukれないと力説しました。その抜粋を紹介します。

民主党の主張する消費税の増税に私が反対する理由は、彼らが前の総選挙で国民と交わした公約を破ろうとしているという理由だけではありません。

ひとつには日本経済の現状です。これだけデフレが続き、超円高に歯止めがかからない厳しい経済環境の中で消費税の増税を強行したらいったい日本経済はどうなるのか。人々はモノを買わなくなり、地域の中小・零細企業や個人商店は増税分を価格に転嫁できず、経済の活力が削がれていくだけです。

もう一つの理由は、消費増税の前に国の仕組みを根こそぎ変えるべきだと私が信じているからです。家でたとえたら、いまの日本は老朽化し、土台から腐って、住める状態ではない。いま求められているのは、リフォーム、部分改修ではなく、更地にまったく新しい家を建てること。社会保障でいえば、年金も医療も福祉も土台から作り直さなければならないのに、消費税の増税なんて、台所の水漏れをセメダインでごまかそうとするだけのこと。一時しのぎで水漏れが止まっても、次は風呂場から水漏れが始まります。

だいたい、水漏れを引き起こしたのは誰でしょうか。自公政権時 82 兆円ほどの一般会計歳出総額は、予算の組み替えに失敗した民主党政権で今年度 95 兆円まで膨れ上がりました。消費税5%増税で見込まれる 13 兆円の増収は彼らのバラまきの後始末に使われるだけなんです。

名目経済成長を3～4%達成すれば、数年後の税収は 10 兆円規模で増えて、消費税の増税は要らないことになる。そのためには、徹底した金融緩和政策を実施すべき。円安になれば名目経済成長率が上がり、一般会



この国を「根こそぎ」変えたいと力説する河井克行代議士
(千代田ビデオスタジオにて)

計税収が増えるという見事な相関関係があります。お札をどんどん刷って、円安に誘導しなきゃいけないのに、現実はまだでさかさまの動き。米国は2%の物価上昇目標値を設定するなど金融政策を総動員して景気浮揚に努める姿勢を明確に示しました。いまこそ、日銀がインフレターゲット政策へと転換すべきです。

ちなみに、日本の財政はただちには心配ないんです。そもそも財務省は二枚舌で、一方では財政が破たん寸前と増税キャンペーンを張りながら、他方では我が国の財政には何の心配もないと言って国債を売っている。実際に、格付けよりもCDS(債務不履行保証契約)保証料の動きの方が、「海外のプロ投資家による投機色が強い取引が大半なので、日本国債に対する海外からの評価が分かる」とされますが、この保証料は安定しているのです。格付けではフランス国債よりも下ですが、CDS 保証料では日本の方が優良で英国やドイツと同じくらいなんです。

はじめに言ったとおり、建て直す新しい家の全体設計図の中で、消費税は考え



られるべきです。国の仕組みを根本から変えようとせず、これまでの社会保障のあり方、これまでの国と地方のあり方をそのままにして、10%に上げても、数年後には15%、20%への増税が待っているだけ。増税をする前に、国を根っこから変える具体的な政策を提示してから、国民に信を問うべきだと私は考えます。

BS・TBS「政策討論 われらの時代」収録風景。
司会は、岸井成格・毎日新聞社主筆と久保田智子・TBS
アナウンサ(広島県出身)

● 出版物のお知らせ ●

河井克行代議士が事務局長を務める超党派政策集団「日本を根っこから変える保守の会」がこのたび、政策提言集『この国を根こそぎ！』(東京プレスクラブ新書)を出版しました。河井代議士は日本の海洋権益を守るための法律制定と、新しい少子化対策としての労働市場の構造改革につき提言しています。一冊840円。

お求めは最寄りの書店か河井克行事務所(国会・広島)にて。

